

## 第2章 尾道市の環境特性と課題

「環境特性」とは基礎調査から分析した長所や課題など環境の特徴のことです。また「課題」は目標設定の目安になります。

ここでは前章(P.4)で説明した6つの環境のうち、私たちにとって身近な4つに絞って本市の特性と課題を示します。

### 1. 生活環境

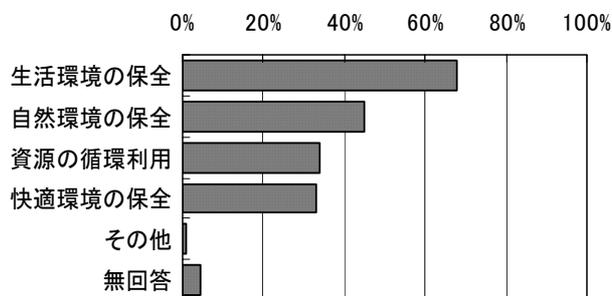
～生活環境は今どうなっているのか～

#### 特性1) もっとも市民要望が強い

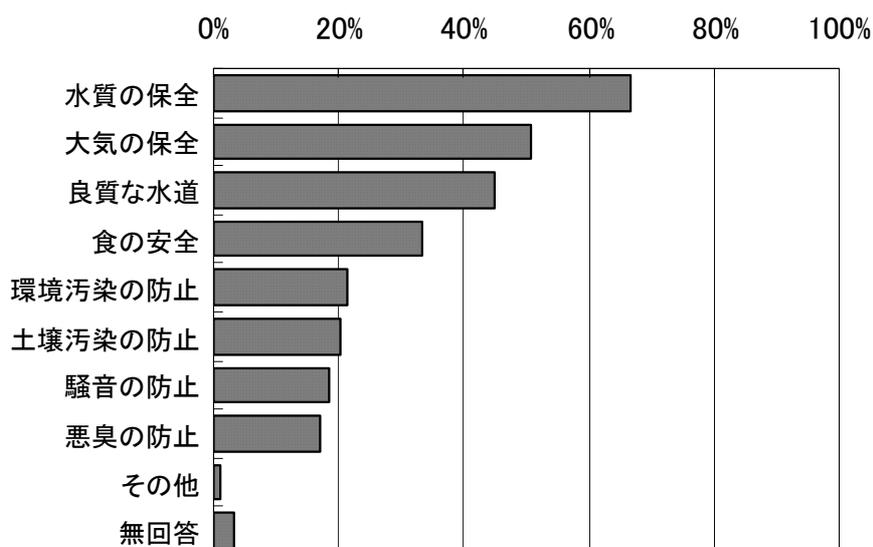
市民アンケートから生活環境がもっとも重要であると多くの市民が考えています(右のグラフを参照)。

同じように下のグラフから人間にとって欠かせない空気や水といった要素が重要だと考えていることがわかります。その中でも水質の保全を回答者の6割から7割が望んでいます。

つまり、健康でかつ快適に生きていくために、生活環境は良好であるべきと多くの市民が考えているようです。



市民が望む将来の環境  
「生活環境の保全」に対する要望が7割近くになっている。  
【市民アンケートより】



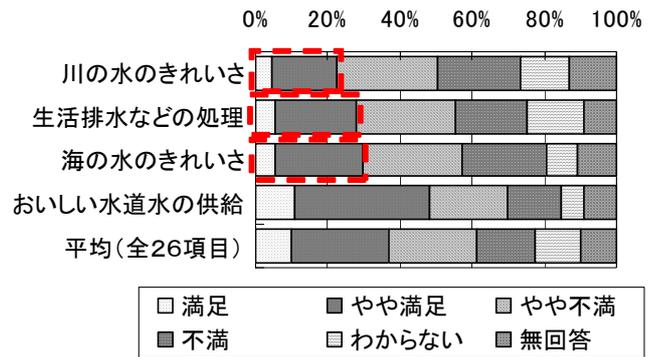
市民が望む将来の環境(生活環境関係)  
「水質の保全」の要望が一番強く、続いて「大気の保全」、「良質な水道」となっている。  
【市民アンケートより】

## 特性 2 ) 水質の保全が取り組むべき重要課題

水質に関しては、下水道の普及の遅れなどから(下のグラフを参照)生活排水の流入にともなう河川の水質汚濁や海域の水質悪化を招く一方、川や海には様々な廃棄物が沈殿するなど、水質保全に関する多くの問題を抱えています。

市民アンケートでも海や川の水質の不満足と重要度が高くなっており、水質全体の改善を多くの市民が望んでいます(右のグラフを参照)。

このように、水は自然を <sup>はぐく</sup> 育み、私たちが健全に生きていくうえでかけがえのないものであることから、水質を保全することが重要な課題です。

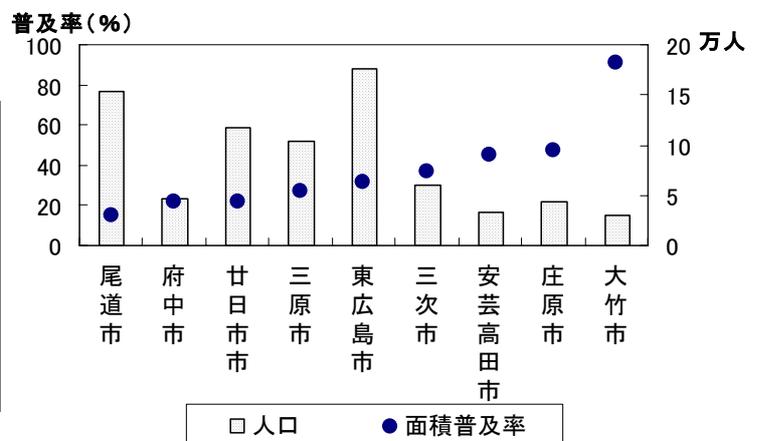


市民の満足度 (水質関係)  
 河川や海などの水質に対する満足度が低い。  
 【市民アンケートより】

### 県内下水道面積普及率 (20万人以下の市のみ)

県内の市において、本市は面積普及率が非常に低い(人口は参考値)。

面積普及率 = 処理面積 / 計画面積  
 【資料: 広島県の下水道 2005 (平成18(2006)年3月31日現在)より】



### 課題 生活排水の水質改善

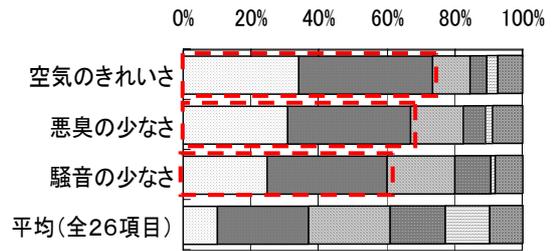
水質保全については、市内の河川や排水路を浄化することが重要ですが、特に栗原川や藤井川などは河川流量が少なく、汚濁の影響を受けやすいことから、汚濁そのものを減らすために発生源からの水質改善を図ることが必要です。

主に汚濁の原因は、家庭からの生活排水を中心とした栄養塩類の流出増大によるものと考えられ、美しい瀬戸内海の水質を守っていくためにも、生活排水対策を図っていくことが必要です。

### 特性3) 地域が抱える問題の多様化

大気汚染や騒音などの環境問題は、大きな環境問題としては顕在化していません。市民アンケートからも「空気のきれいさ」「悪臭の少なさ」「騒音の少なさ」などは比較的満足していることがわかります。

しかし、人口や産業が集中する沿岸部や主要幹線道路沿道において、自動車交通の増大や工場・事業場活動にともない一部懸念されます。



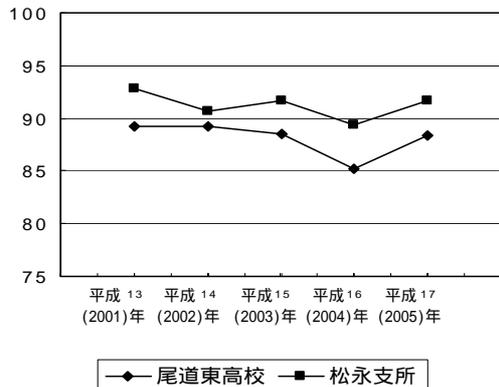
市民の満足度 (上位3項目)  
大気や騒音に対する満足度は高い。  
【市民アンケートより】

市街地では、光化学オキシダント\*が環境基準を超える時間帯があり(右のグラフ参照) また、主要道路周辺では夜間の環境騒音が基準を超えています。

郊外部では、空き地や荒地にともなう環境衛生の悪化や上水道の未整備などが問題であることを地域のヒアリングで確認しています。

このように居住地や地形条件によって、抱える問題が違うことが生活環境の特徴であるといえます。

基準達成率 (%)



光化学オキシダント基準達成状況 (市街地周辺のみ)

基準達成率は100%が望ましいが、本市では尾道東高校 (旧市街地周辺) で90~85%、福山市松永支所 (東尾道周辺) で95~90%までしか達していない。

達成率 = 基準達成時間 / 計測時間

\* 光化学オキシダント

工場や自動車等から排出される窒素酸化物(Nox)や炭化水素(HC)が太陽からの紫外線によって大気中で化学反応を起こして生成される酸化性物質 (オゾンなど) のこと。

## **課題 自動車排気ガスによる大気汚染の防止**

自動車交通は大気汚染や、騒音、振動といった多くの生活環境悪化の要因になり、さらに地球温暖化を進行させる要因にもなっています。

そのため、対策としてバス等の公共交通機関の利用促進を図るとともに、市が率先して低公害車の導入を促進するなど、自動車交通対策を推進することが必要です。

## **課題 安全でおいしい水や食の保全**

飲料水の供給や食の安全など、健康に生活するために不可欠な要素を守っていくことが必要です。特に水道はアンケートでの要望が強かったことから、良質で安全な水道を市内全域に普及させることが必要です。

## **課題 家庭から事業所まで幅広い環境対策**

一般家庭については、日常生活での環境に配慮した行動を習慣づけることが重要です。そのために悪臭や騒音等の近隣問題を引き起こす生活行動をとらないように市民を啓発することが必要です。

工場・事業所については、事業活動での生活環境に関する環境基準の達成状況について継続的にモニタリング（把握）し、未然に環境汚染を防ぐように適切に指導・監視・啓発していくことが必要です。また、重大な情報については、地域住民に公開することも必要となります。

## **課題 地域の状況把握**

市内全域でどのような問題がどこで発生しているのかモニタリングし、それを基に地域の特性に合わせて対策を検討することが必要です。

## 2 . 自然環境

～自然環境は今どうなっているのか～

### 特性4) 大切にしたい自然の豊かさや美しさ

本市は、温暖な瀬戸内気候に恵まれ、山間部の森・川から島しょ部の海に至るまで、豊かな自然環境が市域に広がっています。特に沿岸部や島しょ部は瀬戸内海国立公園に指定されています。

しかし、都市化が進行する中で、森林の荒廃、河川や海岸部では自然減少という問題を抱えています。

市民及び中学生アンケートでは、「大切にしたい、残しておきたい環境」の第1位として「自然」が挙げられており、なかでも尾道水道をはじめとした、海・山・川を多く挙げています。つまり、多くの市民が今ある自然を守っていきたくて考えているようです。

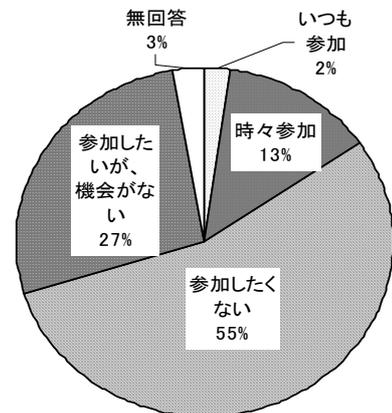
しかし、その一方で中学生アンケートによると、自然環境に関する学習会への参加は、「いつも参加している」と「時々参加している」をあわせても15%しかありません。つまり、子供たちは自然とふれあうことに消極的で、その機会にも恵まれていないことがわかります。

このように次世代へ自然保全をどのように継承していくかが大きな課題になると考えられます。

	一般市民 (18歳以上)	中学生
自然・風景	366	569
祭り	83	142
建物	59	109
花火	21	83
音	1	18
人	1	2

大切にしたい・残したい環境  
自然や風景を大切にしたいと考えている人が多い。

【市民・中学生アンケートより】



自然体験学習等への参加状況  
「参加したくない」が半数以上を占めている。

【中学生アンケートより】

### 課題 生活基盤の維持と自然保全の両立

河川流域沿いや瀬戸内海沿岸部を中心に人口が集積している本市にとって、生活基盤を維持しながら、自然を守ることが大きな課題です。

### 課題 自然環境学習の推進

自然環境保全の重要性を次世代へ引き継いでいくことが必要です。そのためには自然環境学習を通じて、子どもたちに自然のすばらしさ、楽しさを教えることが重要となります。同時に親子が一緒になって環境学習に参加し、地域で主体的に環境学習できるように支援することが必要です。

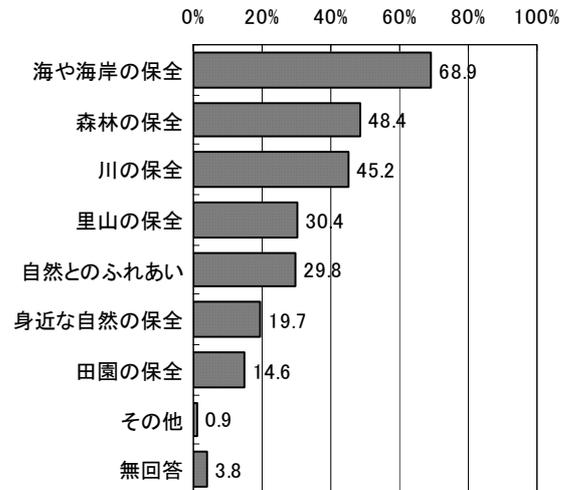
## 特性5) 水辺の自然が重要な環境資源

市民アンケートにおいて、自然環境の保全をめざす場合、「海や海岸の保全」の実現を回答者の7割近くが望んでいます。

地域のヒアリングにおいても、本市の良いところは美しい海岸線やしまなみ景観と答えた人が多く、これらの自然を守ることを多くの市民が望んでいるようです。

生活環境で「水質の保全」の要望が高いように、自然環境でも水辺の自然が重要な環境資源であると考えている市民が多いようです。

また、山の自然の恵みが川を通じて海の生態系を育むように、自然環境は相互に連続性を持っています。海だけではなく森林や川の保全も必要となります。市民アンケートでも、「森林の保全」や「川の保全」を回答者の5割近くが望んでいます。



市民が望む将来の自然環境  
海や森林の保全に対する要望が強い。

【市民アンケートより】

### 課題 海を中心とした自然景観の保全

多くの市民が本市の自然景観を守りたいと望んでいることから、海を中心としたしまなみの景観保全に取り組むことが必要です。そのためには海や川といった水辺の自然を保全することが必要です。

### 課題 海を育む森林や河川の保全

森林は水や大気を良好に保つために重要な役割を持っています。自然景観についても、海に島の緑が調和することでその美しさが強調されます。

このように全体を視野にとらえ、多様な自然環境を一体として考える意識を高めながら、森林や河川を保全することが必要です。

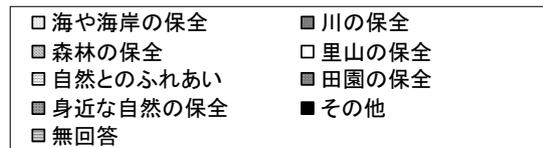
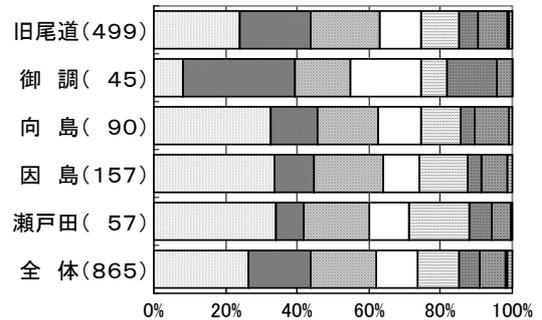
## 特性6) 地域性が強い「大切にしたい自然」

右のグラフから、島しょ部の向島・因島・瀬戸田地域では、「海や海岸の保全」の実現を多くの人が望んでいることがわかります。

一方、山間部の御調地域では、「川の保全」の実現を4割近くの人が望んでいます。

海・川といった水辺の自然環境が重要な環境資源であると市民は認識していますが、海と川という地域的な違いがでてきます。また、「森林の保全」はどの地域もほぼ同じ割合になっていますが、「里山の保全」や「田園の保全」は御調地域のみで重要度が高くなっています

このように地域によって大切にしたい自然が違ってくるのがわかります。



市民が望む将来の自然環境  
（地域別による割合）  
御調と島しょ部で大きな違いがある。

（ ）内の数字は回答人数  
【市民アンケートより】

### 課題 自然環境の実態把握

豊かな自然環境を維持保全していくためには、まず、それぞれの自然がどのように変化しつつあるのかといった自然環境データを、毎年継続的にモニタリング（把握）することが重要です。それぞれの地域において把握すべき自然環境データの項目と方法を検討し、自然環境を適切に保全する施策につなげていくことが必要です。

### 課題 地域との連携体制の強化

効果的な対策を推進するために地域の意見を尊重し、地域と協働で取り組むことが重要になります。

そのために地域が重点的に取り組んでいる活動の支援や地域ごとに重点施策を設定するなど地域別対策を検討することも重要です。

また、それぞれの地域間で連携をとりながら市全体で自然保全の推進体制を強化することも必要です。

### 3 . 資源の循環利用 ~ 資源の循環利用状況は今どうなっているのか ~

#### 特性7) 深刻化するごみ問題

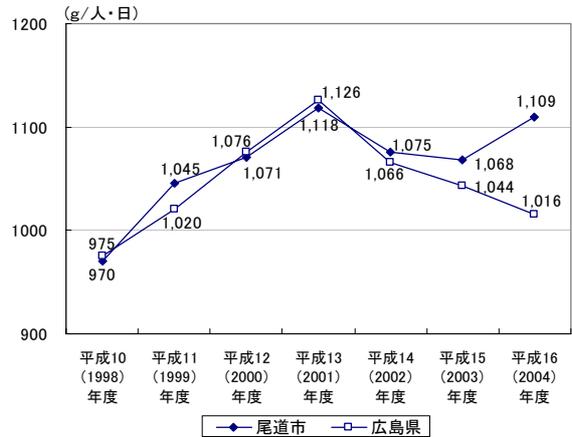
廃棄物にかかわる問題は市町村や地域に関係なくどこでも深刻ですが、本市もけっして例外ではありません。

市民一人一日あたりのごみ収集量について、広島県平均は統計的に減少しているのに対して、本市では増加しています。また、全体の可燃ごみ収集量も増加傾向にあります。

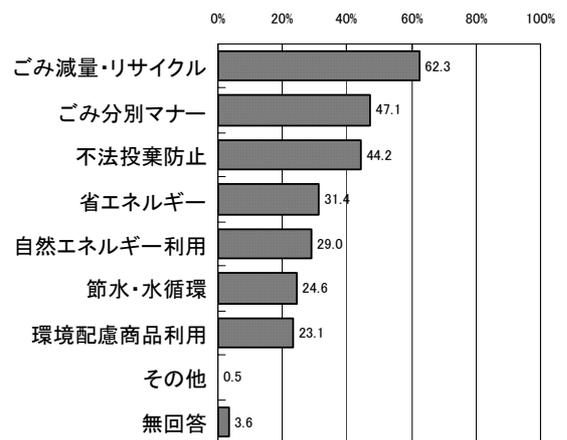
市民アンケートでも「ごみ減量・リサイクル」の実現を回答者の5割から7割が望んでおり、次いで「ごみ分別のマナー」が多く、ごみ問題に対する市民の意識の高さが確認できます。

また、一部のごみステーションの使用マナーを改善する必要があることを地域のヒアリングで確認しています。

次のページで挙げる不法投棄問題を含め、本市でも廃棄物にかかわる問題を多く抱えています。



一人一日あたりのごみ収集量  
 = 年間総収集量 / 処理人口  
 資料：広島県「市町村公共施設状況調」



市民が望む環境(資源の循環利用関係)  
 廃棄物関係が上位を占めている。  
 【市民アンケートより】

#### 課題 省資源・循環型社会の構築

ごみの排出抑制のためには、事業者・市民の責務として、大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイルや事業活動を見直す必要があります。具体的には「要らないものは作らない」「使う量を減らす」「使えるものは繰り返し使う」など市全体のごみの量を減らすこと、ごみの分別を徹底することで「ごみを資源に変える」ライフスタイルを定着させていくことが必要です。

また、省資源・循環型社会を構築できるように、発生源となる事業所や家庭、ごみステーション等を管理する地域、収集や処理をする市や事業者が互いに連携し、それぞれの役割を適正に努めることも大切です。

## 課題 ごみの分別や減量に関する意識啓発

ごみの分別や減量が一部に浸透していない状況にあります。より多くのごみを資源に変えるためにごみの出し方の意識啓発を促進することが必要です。

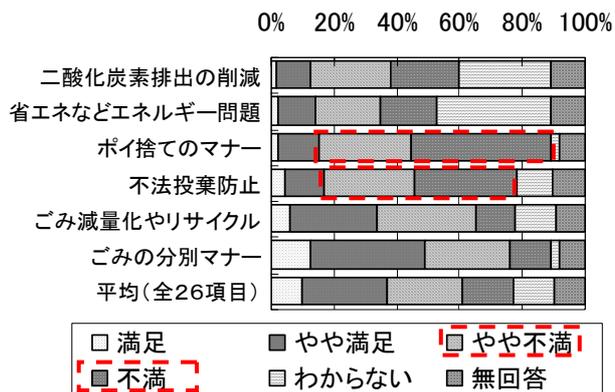
## 特性 8 ) 増加する不法投棄やポイ捨て

ごみの分別強化や排出抑制を推進するにともない、増加するのが不法投棄やごみのポイ捨てです。

市民アンケートでは御調地域・向島地域・因島地域を中心に不法投棄防止の重要度が全体で高く、満足度は向島地域などの島しょ部を中心に全体で低くなっています。

実際に民家から離れた道路沿いの山間部や島しょ部を中心に不法投棄の被害が深刻になっていることが地域でのヒアリング等によって確認されており、その対策が進んでいないのが現状です。

また、地域のボランティア団体によると、バイパスなど主要道路周辺にポイ捨てが多いようです。市外からの滞在者やバイパス利用者などによるポイ捨てを防止することも大きな課題になります。



市民の満足度（資源の循環利用関係）ポイ捨てや不法投棄防止に対する満足度が低いことがわかる。

【市民アンケートより】

## 課題 不法投棄防止対策

ごみ排出抑制を推進すると同時に不法投棄対策も並行して取り組むことが重要です。

まず、荒地や空き地について、所有者に適正に管理するように啓発することが重要です。すでに捨てられているごみは所有者が適正に処理し、「ごみを増やさせない」。また、再度捨てられないように「捨てられにくい環境を作る」。この2点を中心に啓発することが必要です。

次にパトロール等による監視体制については、官民が一体となり、市内全地域で定期的を実施することが必要です。特に被害が深刻な地域は重点対策地域と位置づけ、地元から情報収集や防止活動を推進することが必要です。

また、主要道路周辺のポイ捨て防止対策を推進することも必要です。

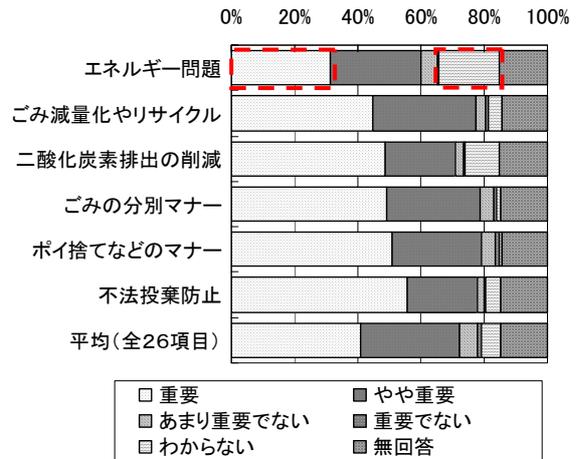
## 特性9) 関心が低いエネルギー問題

現在、地球温暖化という地球規模での環境問題が世界中で注目されています。その影響は人類の生存が危ぶまれるほどに大きくなっています。その重要な解決策の1つとして、各家庭での省エネ対策が挙げられます。

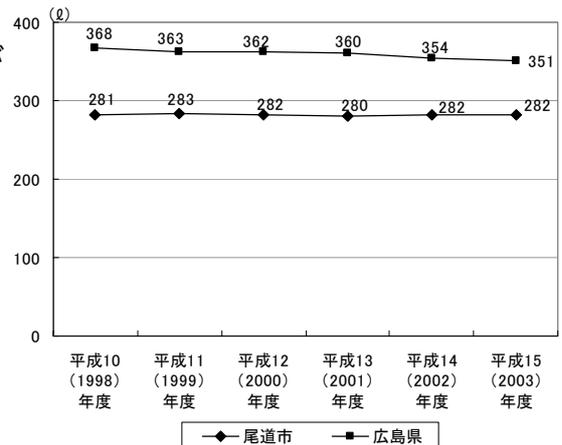
しかし、本市ではエネルギー問題について、重要であると考えている市民が少なく、わからないと答えた人が多くなっています(右のグラフ参照)。このことについては、市全体において十分に市民へ啓発や周知しなかったことが原因の1つとして考えられます。

節水について、統計的に上水道の使用量が市全体で増加傾向になっています。

市民一人一日あたりの平均給水量(右のグラフ参照)も広島県平均を下回っていますが、県全体が減少しているのに対して、本市では横ばい傾向にあります。



市民の重要度(資源の循環利用関係) エネルギー問題が重要だと回答した人が比較的少なく、わからないと回答した人が多い。  
【市民アンケートより】



一人一日当たりの平均給水量の推移  
上表は、上水道に関するデータであり、簡易水道及び専用水道しか整備されていない。御調地域は、含まれていない。  
資料：県生活衛生室「広島県の水道の現況」

### 課題 省エネや節水に対する意識啓発

水や電気等の資源エネルギーの消費を抑えるライフスタイルや事業活動に移行することが必要です。省エネや節水は地球温暖化防止にもつながることから、市民一人ひとりが取り組んでいくことが重要です。

特に、日常生活や事業活動が及ぼす地球環境問題の解決のために、市が中心となって事業者・市民に対する意識啓発を継続的に行っていくことが必要です。

## 4 . 快適環境

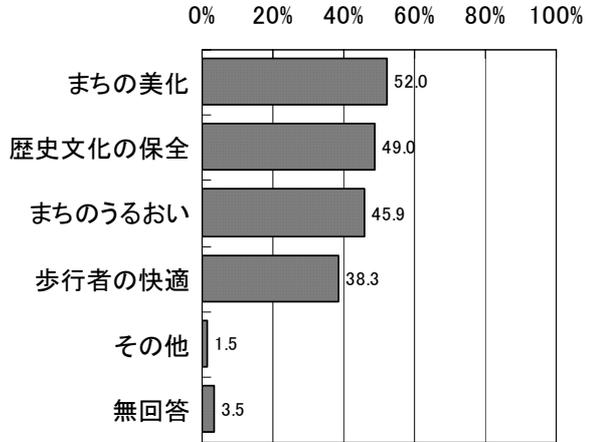
～ 快適環境は今どうなっているのか～

### 特性 10 ) 市民が望むまちの美化

市民アンケートによると第1位に「まちの美化」の実現を望んでおり、次いで「歴史文化の保全」、「うるおいのあるまち」の実現を望んでいます。

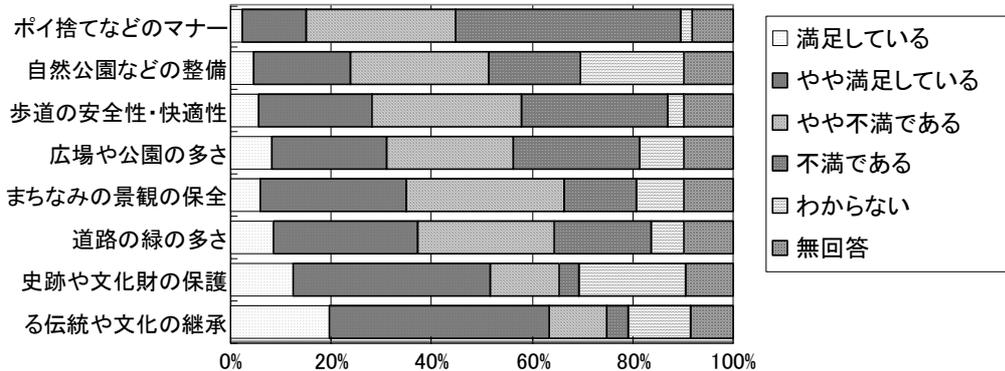
しかし、市民の満足度では「ポイ捨てなどのマナー」に対する満足度が低くなっています。また、中学生アンケートやボランティア団体のヒアリングにおいてもたばこなどのポイ捨てが多いことが問題となっています。

このようなことから美化活動の推進が重要な課題になります。



市民が望む将来の快適環境

【市民アンケートによる】



市民の満足度（快適環境関係）

ポイ捨てなどに対する満足度が低い。また、文化財の保護や伝統文化の継承については満足度が高い。

【市民アンケートによる】

### 課題 清掃美化活動の推進

清掃活動に参加することでポイ捨てマナーも改善されることから、市全体で清掃活動を推進し、参加者を増やしていくことが重要です。そのためにボランティア団体や地域が中心となった清掃活動を支援していく必要があります。

また、それぞれの住宅や施設を所有者が適正に管理することで、美しいまちの形成と美化活動に協力することができます。

## 特性 1 1 ) 本市が誇る歴史や景観

本市は、古くから瀬戸内の海上交通要衝<sup>ようしゅう</sup>の地として栄え、港町、商都として発展してきました。千光寺山<sup>たいほう</sup>(大宝山)、西国寺山<sup>あたご</sup>(愛宕山)、浄土寺山<sup>るり</sup>(瑠璃山)の尾道三山に囲まれた市街地は、国宝をはじめ数多くの文化財を有する寺社が落ち着いたたたずまいを見せています。また、これら文化財だけではなく、各時代の豊かな芸術文化も受け継いできています。

さらに、斜面市街地と尾道水道の景観や、瀬戸内しまなみ海道の橋と多島美が織りなす景観は、市民のみならず全国から訪れる人々を魅了し、多くの文学・絵画・映画などに取り上げられています。

前頁の市民アンケートにおいても、「歴史ある伝統や文化の継承」や「史跡ある文化財の保護」は高い満足度を示しています。

### 課題 個性豊かな景観の保全

本市の景観は、尾道水道周辺の市街地や瀬戸内の島しょ部、内陸の山地・丘陵地など多様な空間からなる地域で構成され、また、地域ごとに自然と市街地が調和した特徴のある景観を有しています。

この自然と市街地が調和した本市固有の美しい景観を守っていくことが必要です。

### 課題 地域の伝統文化の保全

地域固有の伝統文化を保全していくことが必要です。

特に、市民のくらしと密接につながり、守り育てられてきた地域の祭りや伝統文化は、郷土のふるさと意識を醸成するもので、世代を超えて継承していくことが必要です。

平成 8 ( 1 9 9 6 ) 年度環境標語入賞作品

美化めざす 街にポイ捨て 似合わない 光吉 裕

## 特性 1 2 ) 深刻化する担い手不足

古いまち並みという希少価値がある一方で、それにもなう家屋の老朽化が旧尾道市や因島地区の旧市街地などを中心に深刻になっています。

また、少子高齢化や人口減少などが原因で空き家や荒地が増えたことにより、地域防犯や衛生面、農業等へ深刻な影響を与えていることを地域のヒアリングで確認しています。

### 課題 次世代への継承

自然景観と一体となった個性豊かな景観の保全や歴史的な町並みの保全、地域の文化財の保全を推進するためには、それを継承していく担い手が必要です。

人口減少、少子高齢化が進む中で、少しでも多くの担い手を育て、先人たちから受け継いできた歴史的文化遺産を次世代に伝えていくことが必要です。